

本年度学校教育の努力点とその推進計画

主体的・対話的に学ぶ児童の育成
－「自分で決めて進める時間」を通して－

(1) 研究のねらい

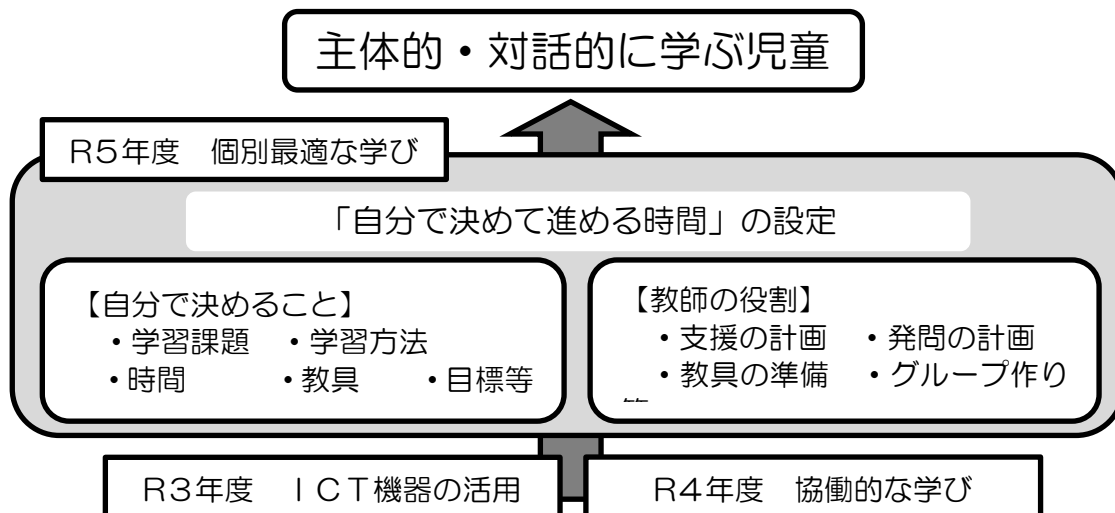
令和の日本型学校教育の構築を目指して、名古屋市では子ども一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進している。

本校では、一昨年度より「主体的に学ぶ児童の育成」を学校努力点のテーマに実践に取り組んできた。1年目は、「なかまなビジョン」の学習過程を踏まえ、ICT機器を活用した授業づくりを追究してきた。2年目は、1年目の成果をもとに、「交流」「学び合い」といった協働的な学びに焦点をあてた実践を行ってきた。2年間の実践を通して、ICT機器を活用した情報収集・処理能力の向上、また協働的な学びを通して、互いの考えを合意形成する力の向上などが成果として得られた。

しかし、そうした力の向上は見られたが、子どもたちが主体的に活動に取り組む姿は十分に引き出すことができなかった。これは、学級の子どもたち全員が自分の興味・関心ではなく、教師から与えられた学習課題に対して、同じ歩調で一斉に学習していく活動が多く、子どもたち個々の関心や意欲が低下してしまったことが原因の一つだと考えた。また、協働的な学びによって、個より集団・グループを優先した結果、学力低位の子どもが悩んだりつまずいたりして、意欲が低下してしまったことも原因として考えられた。

そこで、今年度は「個別最適な学び」に焦点をあて、個々の関心や意欲を大切にしたい授業づくりを目指し、指導方法や支援の仕方を改善していく。特に、一単位時間や単元の中で、「自分で決めて進める時間」を設定し、子どもたちが学習課題や学び方を自分自身で決定し、取り組むことができるようにする。そうすることで、学びが自分事となり、学習内容をより主体的に習得することができるようになると思う。ICT機器の活用や協働的な学びを通じたこの2年間の成果をもとに、個別最適な学びに焦点をあてた実践に取り組むことで主体的・対話的に学ぶ児童の育成を目指していきたい。

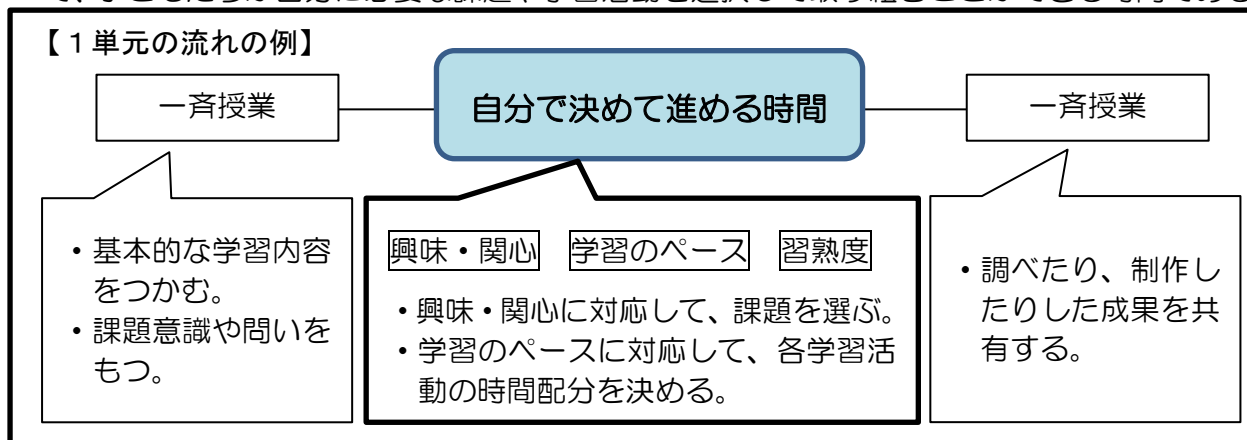
〈目指す児童像〉
「自分で決めて進める時間」を通して、主体的・対話的に学ぶ児童



(2) 研究の内容

ア 「自分で決めて進める時間」の設定について

「自分で決めて進める時間」は、子どもたちの興味・関心や学習のペース、習熟度等に応じて、子どもたちが自分に必要な課題や学習活動を選択して取り組むことができる時間である。



イ 指導の方法について

目指す児童像に迫るための手立てを明らかにし、実践に取り組む。その際、本校における努力点で示す「目指す児童像」を基に、各学年における「育てたい児童像」を設定し、その実現に向けた手立てを講ずる。

【手立ての例】（参照：自由進度学習の「三つの型」）

単元の学習内容と子どもたちの「興味・関心」「学習のペース」「習熟度」の差を基に、子どもに何を選擇させると効果的なのかを考え、教師が型を選択する。

① 課題選択型（興味・関心に対応）

興味・関心や自身の立てた問いなどに対応し、子どもが課題を選択できるようにする。すべての課題に取り組み、取り組む順番を選択する場合といくつかの課題のみ選択して取り組む場合がある。

② 時間設定型（学習のペースに対応）

学習のペースに対応し、子どもがそれぞれ学習活動にかかる時間を設定できるようにする。重点的に取り組みたい活動を明らかにして計画を立てたり、一つの活動で身に付けるべき内容の習得を確認して、次の活動に移ったりする。

③ 目標設定型（習熟度に対応）

習熟度に対応し、子どもが学習に取り組む目標を設定できるようにする。目標を達成するために必要な課題や学習活動に取り組むことで、基本的な学習内容の定着を図るとともに、習熟度に応じ、資質・能力を高められるようにする。

(3) 年間推進計画

4月	研究主題・推進計画（実態調査）	10月	授業実践・授業研究
5月	（実態調査）授業研究計画の検討	11月	中間報告会（取り組みを共有） 授業実践・授業研究
6月	授業研究計画の検討	12月	授業実践・授業研究
7月	授業研究計画の検討 授業実践・授業研究	1月	授業実践・授業研究
8月	授業研究計画の検討	2月	（実態調査）最終報告会 学級懇談会・学年だよりでの報告
9月	授業実践・授業研究	3月	次年度に向けて